

令和3年度 長崎県立鶴南特別支援学校 五島分校 学校評価 保護者アンケート結果

		回収率97%(30/32)		全学部		小中学部		高等部	
番号	評価内容	今年度	R2	今年度	R2	今年度	R2	今年度	R2
1教育活動		3.6	3.6	3.8	3.7	3.5	3.4		
1	教育目標には児童生徒の実態に合った教育的ニーズや願いが盛り込んである。	3.7	3.6	3.8	3.7	3.6	3.5		
2	教育活動と目標は適切で保護者と共通理解を得て実践している。	3.7	3.5	3.8	3.7	3.3	3.3		
3	福江小・海陽高校内にある特色を生かした教育活動を行っている。	3.4	3.5	3.5	3.5	3.6	3.4		
4	保護者の希望や願いの声が届きやすく、学校運営に反映している。	3.7	3.5	3.9	3.7	3.6	3.3		
5	児童生徒が主体的に活動しようとする指導内容や学校行事を行っている。	3.7	3.7	3.8	3.7	3.3	3.6		
6	教職員は自分の個性を発揮し、明るく活気のある学校づくりを行っている。	3.4	3.5	3.5	3.7	3.4	3.3		
7	教職員は、専門性をもって指導に取り組んでいる。	3.6	3.6	3.8	3.7	3.7	3.5		
8	「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」「個別の移行支援計画(高3のみ)」について、保護者と話し合い、課題について取り組んでいる。	3.8	3.7	4	3.8	3.6	3.6		
9	学校行事や授業などで、一人一人の生き生きとした活動の様子が見られる。	3.7	3.7	3.9	3.9	3.3	3.5		
10	児童生徒への指導が一人一人に工夫され、授業を分かりやすくしている。	3.6	3.5	3.9	3.8	3.6	3.2		
11	基本的な生活習慣や挨拶、礼儀などが身に付く指導をしている。	3.7	3.7	3.8	3.7	3.4	3.6		
12	児童生徒の立場に立った相談や声掛けをしている。	3.6	3.5	3.8	3.7	3.6	3.2		
13	児童生徒の命や健康の尊さや人権を尊重した取組をしている。	3.6	3.6	3.7	3.8	3.3	3.4		
14	児童生徒の事故防止のための研修や指導をしている。	3.5	3.6	3.6	3.7	3.3	3.4		
15	学校と家庭が必要な情報を共有し、連携した体制になっている。	3.5	3.7	3.9	3.8	3.5	3.6		
16	学校は、児童生徒の成長に合わせ、将来を見通した進路指導をしている。	3.6	3.7	3.8	3.8	3.4	3.6		
17	児童生徒の将来の夢や願いに向けた情報を提供している。	3.6	3.7	3.8	3.8	3.5	3.5		
18	いじめが起きにくい、いじめを許さない環境づくりに取り組んでいる。	3.6	3.6	3.8	3.8	3.6	3.4		
19	現場実習や進路開拓(一般就労・福祉就労等)を十分に行っている。(高のみ記入)	3.6	3.6			3.6	3.6		
2教育環境		3.5	3.6	3.8	3.8	3.5	3.4		
20	校舎内外の施設が整備され、清潔な学校づくりに努めている。	3.6	3.7	3.8	3.9	3.5	3.5		
21	児童生徒の学習目標に従った教育環境が整えてあり、活用している。	3.5	3.6	3.8	3.7	3.3	3.4		
22	危険箇所などへの配慮が十分なされ安全に配慮している。	3.5	3.6	3.7	3.7	3.3	3.4		
23	潤いのある環境美化のために、掲示物が整備されていたり、花などがあつたりする。	3.5	3.6	3.8	3.8	3.3	3.3		
3開かれた学校		3.6	3.6	3.8	3.7	3.4	3.5		
24	学校行事や学校公開など、地域の人が来校しやすい機会を設けている。	3.6	3.6	3.8	3.7	3.4	3.5		
25	PTA活動に参加しやすいよう配慮している。	3.5	3.5	3.8	3.5	3.3	3.4		
26	学校の情報をホームページや各種便りなどで伝えている。	3.7	3.6	3.9	3.7	3.6	3.5		
4総合評価		3.7	3.8	4	3.9	3.5	3.7		
27	子供にとって望ましい学校である。	3.7	3.8	4	3.9	3.5	3.7		

令和3年度 長崎県立鶴南特別支援学校 五島分校 学校評価 教職員アンケート結果

		回収率100%(28/28)		全学部		小中学部		高等部	
番号	評価内容	今年度	R2	今年度	R2	今年度	R2	今年度	R2
1教育活動		3.4	3.6	3.5	3.7	3.4	3.5		
1	教育目標には児童生徒の実態に合った教育的ニーズや願いが盛り込んである。	3.6	3.9	3.8	3.9	3.5	3.8		
2	教育活動と目標は適切で保護者と共通理解を得て実践している。	3.4	3.5	3.5	3.6	3.3	3.3		
3	福江小・海陽高校内にある特色を生かした教育活動を行っている。	3.5	3.6	3.5	3.6	3.5	3.6		
4	保護者の希望や願いの声が届きやすく、学校運営に反映している。	3.5	3.7	3.4	3.8	3.5	3.5		
5	児童生徒が主体的に活動しようとする指導内容や学校行事を行っている。	3.4	3.8	3.6	3.9	3.3	3.7		
6	教職員は自分の個性を発揮し、明るく活気のある学校づくりを行っている。	3.2	3.6	3.4	3.8	2.9	3.4		
7	教職員は、専門性をもって指導に取り組んでいる。	3.1	3.5	3.2	3.6	3.1	3.3		
8	「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」「個別の移行支援計画(高3のみ)」について、保護者と話し合い、課題について取り組んでいる。	3.5	3.8	3.6	3.9	3.4	3.6		
9	学校行事や授業などで、一人一人の生き生きとした活動の様子が見られる。	3.6	3.7	3.7	3.9	3.4	3.5		
10	児童生徒への指導が一人一人に工夫され、授業を分かりやすくしている。	3.2	3.7	3.3	3.7	3.1	3.7		
11	基本的な生活習慣や挨拶、礼儀などが身に付く指導をしている。	3.4	3.6	3.3	3.6	3.5	3.5		
12	児童生徒の立場に立った相談や声掛けをしている。	3.5	3.6	3.6	3.8	3.4	3.4		
13	児童生徒の命や健康の尊さや人権を尊重した取組をしている。	3.5	3.7	3.6	3.8	3.4	3.5		
14	児童生徒の事故防止のための研修や指導をしている。	3.5	3.7	3.6	3.8	3.5	3.6		
15	学校と家庭が必要な情報を共有し、連携した体制になっている。	3.5	3.7	3.6	3.8	3.4	3.5		
16	学校は、児童生徒の成長に合わせ、将来を見通した進路指導をしている。	3.4	3.5	3.3	3.6	3.5	3.3		
17	児童生徒の将来の夢や願いに向けた情報を提供している。	3.3	3.3	3.2	3.4	3.4	3.1		
18	いじめが起きにくい、いじめを許さない環境づくりに取り組んでいる。	3.6	3.7	3.6	3.8	3.5	3.6		
19	現場実習や進路開拓(一般就労・福祉就労等)を十分に行っている。(高のみ記入)	3.5	3.4			3.5	3.4		
2教育環境		3.5	3.7	3.5	3.8	3.4	3.5		
20	校舎内外の施設が整備され、清潔な学校づくりに努めている。	3.6	3.7	3.6	3.9	3.5	3.5		
21	児童生徒の学習目標に従った教育環境が整えてあり、活用している。	3.4	3.6	3.4	3.8	3.5	3.3		
22	危険箇所などへの配慮が十分なされ安全に配慮している。	3.5	3.7	3.5	3.8	3.5	3.6		
23	潤いのある環境美化のために、掲示物が整備されていたり、花などがあつたりする。	3.4	3.6	3.5	3.8	3.1	3.3		
3開かれた学校		3.5	3.7	3.5	3.8	3.4	3.5		
24	学校行事や学校公開など、地域の人が来校しやすい機会を設けている。	3.6	3.7	3.7	3.8	3.4	3.6		
25	PTA活動に参加しやすいよう配慮している。	3.4	3.7	3.4	3.6	3.5	3.7		
26	学校の情報をホームページや各種便りなどで伝えている。	3.7	3.8	3.9	3.9	3.5	3.6		
4総合評価		3.6	3.7	3.8	3.9	3.2	3.5		
27	子供にとって望ましい学校である。	3.6	3.7	3.8	3.9	3.2	3.5		

令和3年度 学校評価結果の考察と今後の対応について

長崎県立鶴南特別支援学校五島分校

		1 教育活動		2 教育環境		3 開かれた学校		4 総合評価	
		R3	R2	R3	R2	R3	R2	R3	R2
全学部	保護者	3.6	3.6	3.5△	3.6	3.6	3.6	3.7△	3.8
	教職員	3.4△	3.6	3.5△	3.7	3.5△	3.7	3.6△	3.7
小中学部	保護者	3.8↑	3.7	3.8	3.8	3.8↑	3.7	4↑	3.9
	教職員	3.5△	3.7	3.5△	3.8	3.5△	3.8	3.8△	3.9
高等部	保護者	3.5↑	3.4	3.5	3.5	3.4	3.4	3.5△	3.7
	教職員	3.4△	3.5	3.4△	3.5	3.4△	3.5	3.2△	3.5

※4段階評価 ↑：向上 △：下降

1 教育活動について

【全学部】

保護者については3.6Pと昨年と同値の評価であったが、教職員では(3.6→3.4)0.2P下がっている。項目の中では「9：学校行事や授業などで、一人一人の生き生きとした活動の様子が見られる」、「18：いじめが起きにくい、いじめを許さない環境づくりに取り組んでいる」が、保護者・教職員共に3.6Pと高い評価であった。保護者に関しては、「8：「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」「個別の移行支援計画(高3のみ)」について保護者と話し合い、課題について取り組んでいる」(3.8)を筆頭に、18項目中5項目が3.7Pで、8項目が3.6Pと非常に高い評価を得ることができた。今後も保護者と連携をとりながら、児童生徒が主体的に活動し、生き生きと学校生活を送れるように学習活動や学校行事に取り組んでいきたい。

【小中学部】

保護者(3.7→3.8)、教職員(3.7→3.5)となり、どちらも高い評価ではあるが、特に保護者評価は昨年度より更に上がり、3.8Pという非常に高評価となった。また、保護者については全18項目のうち、昨年度を下回ったのは3項目だけであり、下がった項目も0.1P～0.2Pという範囲であった。更に「8：「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」「個別の移行支援計画(高3のみ)」について保護者と話し合い、課題について取り組んでいる」については保護者全員が「4」評価を付けるなど、非常に喜ばしい結果になった。

教職員については、18項目全てが昨年度に比べて下がり、特に「4：保護者の希望や願いの声が届きやすく、学校運営に反映している」(3.8→3.4)、「6：教職員は自分の個性を発揮し、明るく活気のある学校づくりを行っている」(3.8→3.4)、「7：教職員は専門性をもって指導に取り組んでいる」(3.6→3.2)、「10：児童生徒への指導が一人一人に工夫され、授業を分かりやすくしている」(3.7→3.3)の4項目は昨年度と比べて0.4P下がっている。保護者は項目「4」「7」「10」について3.8P以上の評価をしていることから、保護者と教職員の意識の差が感じられるが、教職員としては自らを冷静に評価しているということなので、今後はしっかりと取り組んでほしい。

【高等部】

保護者(3.4→3.5)、教職員(3.5→3.4)となり、どちらもわずかではあるが、保護者は昨年度より0.1P上がり、教職員は0.1P下がった。また、全19項目のうち、保護者が6項目、教職員が11項目において昨年度を下回っており、全体的に少し厳しい評価であった。ただし保護者の評価につい

では、昨年度19項目中13項目が前年度を下回っていたので、今年度は評価が向上していることが分かる。この結果を真摯に受け止め、一つ一つの項目について、大切に取り組んでいきたい。

昨年度、保護者の評価が低かった「2：教育活動と目標は適切で保護者と共通理解を得て実践している」(3.3→3.6)、「4：保護者の希望や願いの声が届きやすく、学校運営に反映している」(3.3→3.6)が0.3P上がっている反面、「10：児童生徒への指導が一人一人に工夫され、授業を分かりやすくしている」(3.2→3.3)は毎年低い評価であることから、教師の授業力が問われていることを真摯に受け止める必要があるとともに、保護者に理解してもらうためにはどうしたら良いかを学部内で考える必要がある。

教職員においては、「5：児童生徒が主体的に活動しようとする活動内容や学校行事を行っている」(3.7→3.3)、「6：教職員は自分の個性を發揮し、明るく活気のある学校づくりを行っている」(3.4→2.9)、「10：児童生徒への指導が一人一人に工夫され、授業を分かりやすくしている」(3.7→3.1)の3項目が大きく下がっている(0.4~0.6)。特に「10：児童生徒への指導が一人一人に工夫され、授業を分かりやすくしている」は保護者の評価も低いことから、保護者だけではなく教師側にも自覚があるということになり、上記にも示したように、これは高等部の喫緊の課題である。

その中で、「16：学校は、児童生徒の成長に合わせ、将来を見通した進路指導をしている」(3.3→3.5)、「17：児童生徒の将来の夢や願いに向けた情報を提供している」(3.1→3.4)、「19：現場実習や進路開拓(一般就労・福祉就労等)を十分に行っている」(3.4→3.5)については教職員で評価が上がっており、高等部の大きな役割である進路指導に関して評価が上がっていることは喜ばしいことである。

2 教育環境について

【全学部】

保護者(3.6→3.5)、教職員(3.7→3.5)で、どちらとも僅かではあるが、昨年度より評価が下がった。保護者については、全4項目全てで0.1P下がり、教職員についても全項目で(0.1~0.2)評価が下がっている。ただし、4項目とも保護者は3.5P以上、教職員は3.4P以上と低い評価ではない。

【小中学部】

保護者(3.8→3.8)、教職員(3.8→3.5)となり、保護者の評価は昨年と同値で高い評価だった。教職員は0.3P下がったが、十分に高評価だと考える。

保護者からは高い評価であったが、教職員の「21：児童生徒の学習目標に従った教育環境が整えてあり、活用している」(3.4)が少し低かったのは、教室環境や備品等が他校に比べて十分ではないということかもしれないが、与えられた環境で教育実践をするしかないのもので、そのための工夫や安全面の担保など、今後もよりよい教育環境の整備に取り組んでいきたいと考える。

【高等部】

保護者(3.5→3.5)、教職員(3.5→3.4)と、保護者は同値であり、教職員は僅かに昨年度の評価を下回った。保護者の評価で4項目中2項目は下がっているが、3.3以上と高い評価ではあるので、今後も生徒達と一緒に清潔な学校づくりや花など潤いのある環境美化に取り組んでいきたい。

3 開かれた学校について

全学部では、保護者（3. 6→3. 6）、教職員（3. 5→3. 7）となり、保護者評価は昨年と同値、教職員は0. 2 P下がっていたが、どちらも3. 5 Pと高評価であった。

【小中学部】

保護者（3. 7→3. 8）、教職員（3. 8→3. 5）で、保護者評価は昨年度に比べて0. 1 P上がり、3. 8 Pという高評価であった。小学部・中学部ともに学級通信を欠かさず出したり、ホームページを積極的に更新したりするなど、保護者や地域へ広く情報発信をしている結果であると考えられる。

【高等部】

保護者（3. 4→3. 4）、教職員（3. 5→3. 4）で、昨年度とほぼ同値であった。保護者の「25：PTA活動に参加しやすいように配慮している」が3. 3 P（昨年は3. 4 P）で昨年同様に少し低い結果が出ているが、今年度も新型コロナウイルス感染症の影響でPTA活動が思うようにできなかったり、保護者や地域の方の学校行事への参加を制限したりした結果が影響しているのかもしれない。今後も感染症対策をしっかりとしながら、できる範囲で活動を行ったり、保護者への情報提供や地域とのつながりを大切にしたりするなど、開かれた学校づくりに取り組んでいきたい。

4 総合評価

全学部では、昨年度と比較すると、保護者（3. 8→3. 7）、教職員（3. 7→3. 5）となり、保護者、教職員ともに僅かに昨年度より評価が下がったものの、共に高い評価であった。学部別でみると、小中学部の保護者に関しては、全26項目中、保護者全員が「4」を付けた項目が2項目、3. 9 Pが5項目、3. 8 Pが14項目で、21/26が3. 8 P以上という非常に高評価であった。特に「27：子供にとって望ましい学校である」が「4」の評価を得られたことは喜ばしいことである。高等部も0. 2 P下がったが、3. 5 Pという高評価だった。

全体を総括してみると、保護者の評価は全体的に高く、教職員の評価が低い傾向にあった。教職員の評価については、ほぼ全項目で昨年度を下回っているが、昨年度の評価が高すぎたこともあり、今年度の評価も決して悲観する値ではないと考える。また、考え方によっては厳しい目で自己分析をした結果とも考えられる。しかし、「6：教職員は自分の個性を発揮し、明るく活気のある学校づくりを行っている」（高等部2. 9 P）、「10：児童生徒への指導が一人一人に工夫され、授業を分かりやすくしている」（小中学部3. 3 P、高等部3. 1 P）については、教職員にとって非常に重要な項目であり、専門性を問われる課題でもある。自己分析ができていることから、今後は各自自己研鑽に努める必要性を感じた。また、今回の考察をしながら感じたことであるが、改善方法を見ると、他人事のような書き方をしているように感じる部分があった。学校運営は所属する職員一人一人が関わっているものであり、「自分が付けた学校評価は、その人自身の評価」と考えることもできる。「～できていない」「～してほしい」という一方的な要求ではなく、「どうしたら～できるのか」「自分なら～した方がよいと思う」という建設的な意見や考え方をもつこと、そして職員一人一人が鶴南特別支援学校五島分校の一員であり、学校運営に参画しているという意識をもつことが大事である。

今後も、職員間や保護者との連携を大切にしながら日々の指導・支援に努め、保護者の期待に応えられるような、より良い学校づくりに取り組んでいきたい。